

2025年4月4日

各位

会社名 イオン株式会社
代表者名 取締役兼代表執行役社長 吉田 昭夫
(コード番号：8267、東証プライム市場)
問合せ先 執行役 財務・経営管理担当 江川 敬明
(TEL. 043-212-6042)

通期業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、最近の業績の動向等を踏まえ、2024年4月10日に公表した2025年2月期（2024年3月1日～2025年2月28日）の業績予想を修正することとしましたので、お知らせいたします。

1. 当期の連結業績予想数値の修正（2024年3月1日～2025年2月28日）

	営業収益	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する当期 純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想（A）	10,000,000	270,000	260,000	46,000	53.74
今回修正予想（B）	10,134,000	237,000	224,000	28,500	33.30
増減額（B－A）	134,000	△33,000	△36,000	△17,500	-
増減率（％）	1.3	△12.2	△13.8	△38.0	-
（参考）前期連結実績 （2024年2月期）	9,553,557	250,822	237,479	44,692	52.25

2. 修正の理由

当社の2025年2月期における連結業績見通しにつきましては、当期（2024年3月1日～2025年2月28日）の営業収益が10兆1,340億円（前回発表予想比1,340億円）と過去最高を更新する見通しです。一方、営業利益は2,370億円（同△330億円）、経常利益は2,240億円（同△360億円）、親会社株主に帰属する当期純利益は285億円（同△175億円）を見込んでおり、減益となる見通しです。

営業収益については、消費者の節約志向が高まる中、消費喚起策を重点的に取り組んだ結果、食品・日用品を中心とする必需品の売上が底堅く推移、プライベートブランド・トップバリュの拡販強化も奏功し、増収となりました。すべてのセグメントにおいて増収となる見通しですが、中でも国内外でカードショッピング取扱高等が増加した総合金融事業、いなげやを新規連結化したSM事業が全体をけん引しました。

一方、営業利益については、物価高や気候変動に伴う消費者の行動変容等により、小売事業において荒利率の改善が想定通りに進まず減益となりました。セグメント別では総合金融事業、ディベロッパー事業及びサービス・専門店事業が増益を確保する見通しです。

また、下期以降、トップバリュ・ベストプライスを軸とした価格訴求や荒利額の確保をグループ方針として明確に打ち出すとともに、経費計画を再検討し、人時管理の意識を徹底して高め、生産性向上を図ってまいりました。これらの取組みにより荒利額の改善や費用の最適化が進み、下期は営業利益及び経常利益が過去最高となる見通しです。

親会社株主に帰属する当期純利益については、総合金融事業におけるカード不正利用被害による一過性の損失計上に加え、中国で展開する各事業やディベロッパー事業、ヘルス&ウェルネス事業において、エリア戦略や出店計画を抜本的に見直す中で、減損損失や閉店関連損失を計上し、減益の見通しとなりました。かかる取り組みは、短期的には利益を減少させるものの、将来的な収益基盤の強化につながるものと考えております。

以上